

令和6年度 自己評価表（最終評価）

鳥取県立倉吉西高等学校

|       |  |
|-------|--|
| 教育目標  | 校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。 |
| 中長期目標 | 1 道徳教育の充実<br>2 キャリア教育の充実<br>3 高い志の実現に向けた、学ぶ意欲の向上               |

|          |   |
|----------|---|
| 今年度の重点目標 | 1 人間性や社会性の向上<br>2 チャレンジグループ活動の充実による自己探究型キャリア教育の推進<br>3 学びの深化と主体的学びの構築<br>4 情報発信の更なる充実<br>5 働き方改革の推進 |
|----------|---|

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]

| 年度当初                       |  |   |  |   | 評価結果(2月)   |    |   |
|----------------------------|--|---|--|---|--|----|---|
| 評価項目                       | 評価の具体項目  | 現状  | 目標(年度末の目指す姿)   | 目標達成のための方策  | 経過・達成状況  | 評価 | 改善方策  |
| 人間性や社会性の向上                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>個人や集団の間に存在する様々な「違い」の理解度を深める。</li> <li>「人との関わり」や「出会い」を大切にしていくことで、豊かな心を育成し、主体性を培う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>人権 LHR や講演会を通じて人権意識が高まり、相手の立場を考慮して行動する生徒が増えている。</li> <li>生徒会活動に積極的に参加し、主体的に活動できる生徒は昨年度 76.4%であり、教員からの働きかけが引き続き必要な状態にある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>価値観や考え方の違いを受容し、周囲に配慮した行動ができ、人の思いに共感する力がさらに伸びている。</li> <li>生徒会活動やボランティア活動に積極的に参加している。組織的な活動への参画を通じ、自分の在り方、豊かな人間関係を学んでいる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>人権講演会の実施や各教科の授業・特別活動を通じ、人権を尊重し立場の違う人たちへの理解を深める。</li> <li>生徒会活動を通して、他者と共に試行錯誤しながら自他ともに大切にすることを学ぶ。また、挨拶運動を行い、挨拶を通じた関係作りを進める。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>人権 LHR、講演会等を通じて人権意識が高まった。生徒アンケートで「本校では人権意識のもとに生徒一人ひとりを大切にしている指導がなされている」という問への肯定的な回答が 92.1%で、昨年比 0.3 ポイント向上した。</li> <li>西高祭、挨拶運動等の生徒会活動を通じて他者を尊重する精神が育成された。また、生徒アンケートで「あなたは生徒会活動やホームルーム活動に参加し、積極的に自分の周りの人たちの為に行動することができる」という問への肯定的な回答が 80.1%で、前年比 4.3 ポイント向上した。</li> <li>1 月末時点でのボランティア参加率は S1 は 85%、S2 が 45%、S3 は 10%だった、全員参加を目標にしている S1 の参加率が高い。</li> <li>探究活動で地域関係者への聞き取り調査や現地調査等を主体的に実施し、人との関わりや出会いの重要性を認識できる生徒が増加した。</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>年 3 回実施の人権教育 LHR を生徒や社会の変化に合せ改善する。また、全教科全領域で人権を尊重する態度の育成に努める。</li> <li>生徒会執行部を中心とした課外活動を計画的に実施し、生徒間のコミュニケーションを促進していく。</li> <li>ボランティアに関しては、引き続き情報収集と情報提供につとめ、電子データを使ったボランティア案内や、ホームルームを通じての担任からの情報提供を行う。</li> <li>探究活動を通じて積極的に地域の方々との関わる機会を促進するため、地域の企業や行政機関、NPO 団体との連携を深め、受け入れ態勢を整備する。また来年度からはステージ 1 の芸術で地元の陶芸家を招いて陶芸指導をしていただくなど、地域人材を活用した教育活動を推進していく。</li> </ul> |
| チャレンジグループ活動の充実によるキャリア教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域を支え貢献に資する人材を育成する高校として、地元自治体や地元大学等と連携しながら、「ふるさとキャリア教育」を推進する。</li> <li>様々な活動に自主的、実践的に取り組み、課題を解決することを通じて自己実現を図ろうとする態度を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の大学、行政機関等との連携が徐々に進みつつあるが、連携がまだ十分ではない。また、生徒の探究活動では、現地調査やインタビューなど、直接地域と繋がる活動が十分ではない。</li> <li>昨年度は「3 年間を見通した進路学習計画と、探究を通じて学びの視野が広がった」生徒が 88.8%にのぼり、主体的に進路を開拓しようとする姿が形成されつつある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題に対する理解が深まり、解決に向けた取組を積極的に探究しようとする生徒が増加している。</li> <li>探究活動と進路学習が有機的に結びつくことで、自らの視野や選択肢が広がり、将来の学びや自己実現について考える生徒が増加している。</li> <li>校外でのイベントや取組に積極的に参加する生徒が増えている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地元自治体や大学との連携を強化して直接生徒が地元の方々や繋がり、地域理解を深める機会を増やす。</li> <li>3 年間を見通した進路学習計画や探究活動計画に沿って、計画的に講演会や大学・企業訪問などを実施する。</li> <li>校外で行われるイベントの情報提供と参加の働きかけを積極的に行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>S2 生徒のほぼ全員が夏休みにオープンキャンパスに参加した。また、S1 の生徒は夏休みに WEB で学問に関する動画視聴したり、秋に鳥取大学訪問を実施するなどして、大学等での研究・学びに対する視野を広げた。</li> <li>生徒アンケートで「本校では総合的な探究の時間で実施している進路学習が充実している」という問いへの肯定的な回答が 95.4%で、前年比 1.1 ポイント向上した。</li> <li>地元自治体や大学と連携した活動が進み、地域課題の解決策の提言まで踏み込んだ活動が増えた。生徒アンケートで「CG 活動や大学訪問等により地域についての理解が進み、探究への積極性が増した」という問いへの肯定的な回答が 84.8%で、前年比 3.9 ポイント向上した。</li> <li>ゆりはま若者会議、倉吉市民ワークショップなど校外活動に参加する生徒が延べ 19 名と大幅に増え、また三朝町の空き家活用事業との共同研究も進み、主体的に地域と繋がる姿が見られた。また、S2 の 28 班がみらい甲子園山陰大会にエントリーし、2 班が決勝に選出された。</li> </ul> | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>進路情報の適切な提供と、丁寧な生徒面談の実施を通じて進路意識を高める。</li> <li>生徒の興味関心や探究活動の成果と大学での学びを有機的につなげ、主体的な学習習慣の確立につなげていく。</li> <li>来年度は鳥取県立美術館・鳥取短期大学との連携をさらに進めるとともに、倉吉商工会議所から協力も得ることで、地域課題解決策の実践活動を増やしていき、地域関係者との繋がりや地域理解を深める。</li> <li>3 年間を見通した探究活動計画を、社会の変化や課題に合わせて常にアップデートしていく。</li> </ul>  |

|                       |   |   |   |  |   |          |  |
|-----------------------|---|---|---|--|---|----------|--|
| <p>学びの深化と主体的学びの構築</p> | <p>○図書館を積極的に活用し、課題解決能力の育成に向けた学びを深める。</p> <p>○ICTの効果的な活用をさらに進め、生徒の主体的学びにつなげる授業を展開する。</p> | <p>○昨年の図書の一人あたりの貸出冊数が6.47冊でやや増加傾向にあるが、授業や探究学習で図書館を活用した学びの機会が少ない。</p> <p>○模試の振り返りや情報収集等にICT活用が進み、生徒の主体的な学びへの意識が向上しつつある。昨年度は88.2%の生徒が「授業はわかりやすく充実している」と回答している。</p> <p>○各教科で公開授業を実施し、ICTを活用した授業の技術を教科間で共有することができた。</p> | <p>○図書館の貸し出し冊数が増加し、書籍や資料等を活用して課題解決に取り組む生徒が増えている。</p> <p>○生徒アンケートで「本校の授業はわかりやすく充実していると感じる」という回答が9割を超えている。</p> <p>○授業や探究活動でChromebookの利用が進み、個別の課題に主体的に取り組む生徒が増えている。</p> | <p>○計画的な朝読書を通じて、本に触れる機会と、直接図書館に直接足を運ぶ機会を増やす。</p> <p>○クラッシーやマナビジョンのポートフォリオ機能等を活用することで、生徒自身の学びの自走につなげる。</p> <p>○今年も各教科が校内研究授業を行い、活用方法の共有や研修を深める。</p> | <p>○図書館の展示や、朝読書の計画的な運用により、貸出冊数が昨年度の2,188冊から2,839冊と増加した。特にS1でのビブリオバトル実施が、読書量の増加につながった。</p> <p>○模試の振り返りでマナビジョンやクラッシーのポートフォリオ機能を活用し、復習に積極的に取り組んでいる生徒も見られるが、ICTを活用した個別最適化の学びの実現については、今後も継続的な研究が必要である。</p> <p>○ICT活用公開授業を全教科で実施し、Chromebookを利用した授業研究を進めた。</p> <p>○Chromebookの利用状況に関するアンケートで「学ぶ意欲が高まった」と答えた生徒が前年度に比べ10%増加し、また生徒アンケートでは91.7%の生徒が「授業はわかりやすく充実している」と肯定的な回答し、数値目標である「9割以上の肯定的評価」は一応達成できた。</p> | <p>B</p> | <p>○年間計画を改善し朝読書への意味づけを明確にしていくことで、主体的に読書を行う生徒を育て、読解力を育成する。</p> <p>○生徒の利用状況を定点観測することで、連続性のある取組とし、学習習慣の確立につなげる。また、これまでの各教科での活用方法と模試結果等のデータ推移を分析し、クラッシーの効果的な活用を研究する。</p> <p>○次年度の公開授業をICT活用だけでなく、「探究的な学びの推進」を目標とすることで、教員の指導力向上につなげる。そのために先進校視察や、外部講師の指導を通じて外部の知見を導入し、Chromebookを効果的に活用した探究的学びの研究を、継続的に進めていく。</p> |
| <p>情報発信の更なる充実</p>     | <p>○ホームページやInstagram等を活用し、生徒の活動の様子を積極的に発信する。</p>  | <p>○ホームページやInstagramを通じた情報発信が十分ではない。</p> <p>○PTA広報誌の作成は、保護者と連携し工夫している。</p>  | <p>○ホームページや広報誌の内容が充実し、校内の教育活動や部活動の情報が適切に発信されている。</p> <p>○ホームページが月間10件以上更新されている。</p>   | <p>○ホームページやInstagram、広報紙等の役割、特徴を整理し、役割に応じた情報発信に努める。</p> <p>○ホームページの更新は事前に担当を割り振り、全職員で更新していく。</p>   | <p>○R7年1月末現在、ホームページ更新状況は1月あたり平均10件を超え、年度当初の目標を達成した。</p> <p>○保護者アンケートで「倉吉西高のホームページやInstagramをよく見ている」という問への肯定的回答が68.9%となり、前年比12.3ポイント上昇した。</p> <p>○PTA広報誌の作成について、発行がやや遅れることもあったが、Googleフォームで保護者の意見を集約したり、写真選びに参画してもらうなど、保護者目線の紙面構成ができた。</p>   | <p>A</p> | <p>○今後も毎月の行事予定表に情報発信の担当欄を設け、引き続き分掌や部活動などと協力し、全職員でホームページを更新する。</p> <p>○先進校の取組を参考に、文字の分量や写真の配置を工夫し、読みやすいホームページの作成を目指す。</p> <p>○PTA広報誌の発行については、計画的な作成と誌面構成にこだわり、より本校の教育活動が伝わるものにしていく。</p>   |
| <p>働き方改革の推進</p>       | <p>○教職員の心身の健康を保つための環境整備を行い、実現に向けた改革を推進する。</p> <p>○ICTを活用して業務の削減を図る。</p>                 | <p>○職場環境の整備や業務改善は進んでいるが、まだ作業効率が悪い業務慣行や、整備が必要な施設などが残っている。</p> <p>○業務のICT化が進み、業務効率の向上や時間外業務削減につながっている。</p>  | <p>○職場環境がさらに改善され、業務の効率化と施設・設備の整備が進んでいる。</p> <p>○業務のICT化がさらに進んでいるだけでなく、職員がストレスなくICT機器を使いこなしている。</p>  | <p>○衛生委員会で意見を聞くとともに、普段から教職員間のコミュニケーションを促進し、問題点を顕在化し、改善策を検討していく。</p> <p>○ICT推進チームやICT支援員に依存するだけでなく、教員間で気軽に教えあえる環境を作る。</p>                           | <p>○5月に職員会議の資料をGoogleドライブ上で共有し、印刷や編集の手間を無くし、保存とアクセスの利便性を高めた。</p> <p>○7月に外部からの文書を紙で閲覧するのを止め、校内LAN上でデータベース化した。</p> <p>○1月から職員室のホワイトボードでの情報共有を、倉西高ポータルサイトに置き換え、学校行事や施設予約、年休・出張確認が一つの画面上で行えるようにした。</p>  | <p>A</p> | <p>○情報のデータベース化は進んだが、運用面の知識に乏しく、アクセス頻度が低い職員もいるため、Webページを使いやすい形にアップデートしていく必要がある。</p> <p>○ICT支援員の活用を進めるとともに、平素からの教員間のコミュニケーションの促進を図り、教員同士で操作を教えあったり、セキュリティーの相互確認をしたりすることを奨励する。</p>  |